

令和5年10月1日

## 令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園 京都動物専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和4年度 自己点検・評価報告書」に基づき、令和5年度の学校関係者評価を実施し、以下にこれを報告いたします。

開催日時：令和5年9月22日（金）10：30～12：00

場 所：京都動物専門学校 1号館2階202教室

参加委員：中嶋慶喜（ドッグサロン・レーヴ代表）

平尾克英（京都福祉専門学校副校長・専門学校部留学生担当課長）

教職員：木原茂弘（校長）、大塚浩也（副校長）、越後伸司（事務長）、寺岡朋美（教務部長）、常石誠（グルーミング学科主任）、樫原伸哉・杳名竜佑（愛玩動物看護学科教員）、中井澄子（進路主任）、松本大輝（入試広報主任）

欠 席：吉田龍一郎（吉田家畜動物病院院長）

中本敦史（学校法人南京都学園法人本部企画室室長）

塩見孔爾（京都廣学館高等学校教育企画室室長・法人本部教育研究所所長）

### 評価項目と学校関係者評価・意見

評価項目	説明及び評価・意見	対応等
1 学校運営	<p>(説明)</p> <p>○職業実践専門課程について 令和4年度より、グルーミング学科/愛玩動物看護学科を開設。それに伴う変更手続きが受理され、両学科とも職業実践専門課程に認定された。</p> <p>○専門実践教育訓練について グルーミング学科は名称変更で継続。愛玩動物看護学科に関しては、新規扱いとなる。</p> <p>○学校関係者評価委員会 今後も引き続き開催する。</p>	<p>新規申請の準備を行う。 (愛玩動物看護学科の卒業生輩出初年度に申請)</p>

<p>2 教育活動 (カリキュラム編成)</p>	<p>(説明) ○愛玩動物看護師養成所指定カリキュラム（主に動物看護総合実習）についての説明・意見交換を行う。</p> <p>(意見) ○実習内容・評価項目を簡略・簡素化して病院に伝える方が良いのではないか。</p> <p>○実習前に病院と学校との打ち合わせが必要である。</p> <p>○実習終了後に「実習指導者懇談会」のようなことを実施すればどうか。学校と受入れ施設の双方の理解の場になる。</p> <p>○評価方法はどのようになっているのでしょうか。学校と病院の双方による評価が望ましいと思いますが。</p>	<p>カリキュラムマップや実習内容チェック表だけではなく、より分かりやすい指標を考える。</p> <p>時間の調整は難しいが、できる限り行う。</p> <p>こちらも、病院様との時間の調整が難しいが、工夫をし可能な限り実施したい。</p> <p>病院と学校の双方の評価となっています。</p>
<p>3 学修成果 (教育指導) (資格)</p>	<p>(意見) 正直、即戦力を求めます。 最低限の知識・技術を身に付け、かつ現場の状況を理解した人材の育成をしてほしい。</p>	<p>即戦力が必要なのは十分、承知しています。特に愛玩動物看護師は国家資格となり、資格取得の勉強も必要であり、かつ就職に向けた指導も必要になります。そのために、的確な指導と時間の確保に努めてまいります。</p>
<p>4 生徒支援 (インターンシップ) (高等教育修学支援新制度)</p>	<p>(説明) ○インターンシップについて グルーミング学科については就職活動の年間スケジュールに組み込んで実施している。 愛玩動物看護学科についても</p>	

	<p>就職活動の年間スケジュールに組み込んでいるが、動物看護総合実習の関連上、2年生の後半～3年生での実施となります。</p> <p>○高等教育修学支援新制度 令和6年度からの機関要件の変更（実質は財政要件の引上げ）が決定しました。本校は新要件を満たすことが難しいのが現状です。</p>	<p>対象校から外れると、生徒への支援に影響もあるが、募集にも大きな影響が考えられる。対象校として支援を受けられる環境を整えることに努める。要件を満たすよう努める。</p>
5 教育環境 (施設設備) (ICT活用)	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3号館1階リニューアル予定</li> <li>・全館LED完了</li> <li>・生徒用機のリニューアル完了</li> <li>・モニターの増設</li> </ul>	
6 生徒の受入れ募集	<p>(説明)</p> <p>新入試制度を実施して2年目となります。定員の厳格化と選ばれる学校を目指し募集を行っていますが、6年度生の募集は少し厳しい状況であります。</p> <p>(意見)</p> <p>新入試制度の変更は良いと思います。</p> <p>「誰でも取ります」では、本人のやる気にも関わってくるのではないのでしょうか。</p>	<p>教育の質を落とさない為にも、新入試制度で募集に努めることが必要ですし、ブランディング化に繋げるためにも必要だと思います。</p>
7 社会貢献・地域貢献	<p>(説明)</p> <p>生徒が毎年グッズを製作し販売して得た利益で寄贈品を購入し京都動物愛護センターに寄贈する活動を今年度も実施できた。</p>	<p>イベントにもボランティア等で積極的に参加する予定である。人・地域・社会との繋がりを体現できる機会をつくる事を考える。</p>

以上